令和７年度「人権教育研究推進事業」研究指定校事業

都道府県・指定都市名（　鹿児島県　）

１．基本情報

研究指定校名	伊佐市立菱刈小学校

○これまでの研究指定等の状況

－

○学級数

８学級（うち特別支援学級２学級）

○児童生徒数

74 人（令和７年４月１日現在）

○URL

http://www4.synapse.ne.jp/hishikari-ps/

２．調査研究のテーマ、概要、指定理由

調査研究のテーマ	郷土に誇りをもち、心豊かに自らを磨き続ける児童の育成を目指した学校づくり　～児童の自己肯定感を高め他者理解を深めながら、地域とともに成長する取組の工夫～

○調査研究のテーマを設定した目的

伊佐市立菱刈小学校は、創立 150　年以上の歴史をもつ伝統校である。地域と密着した教育活動が展開されている学校であり、地域住民や保護者との連携が強い。また、全校児童 74 人と比較的小規模の学校であり、教児共に落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができている。

ここ数年の全国学力・学習状況調査の児童質問紙で、「将来の夢や目標をもっていますか」や「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問については、本県及び全国の平均より高いポイントを示している。一方、「自分には、よいところがあると思いますか」や「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問については低いポイントを示している。このことから、他者と異なることに対して自信がもてなかっ

たり、地域の行事に参加はしているものの地域に対して貢献をしようという意識が高まっていなかったりする児童の様子が確認できる。
　また、令和５年度は国語、算数ともに正答率が全国平均より下回っている状況があり学力の定着に課題があったが、令和６年度、令和７年度と徐々に正答率が上がってきている状況がある。
　これらの課題の解決を目指し、学校教育目標を「ふるさとを思い、心豊かでたくましく自ら進んで学ぶ『菱っ子』の育成」と設定している。
　学校教育目標を達成するためには、児童が全教育活動を通して、郷土に対する誇りをもつとともに、学校生活の中で望ましい人間関係を構築しながら、達成感や充実感を味わい、自己肯定感や他者理解を深める取組を進めていくことが効果的であると考えた。そのため、郷土教育、人権教育の視点を基本に据え、学校教育活動全般のより一層の充実を図ることで、心豊かに自らを磨き続ける児童を育成することができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

〇調査研究の概要

　伊佐市立菱刈小学校は、令和５年度から研究テーマを「児童一人一人の実態を把握し、指導の個別化による確かな学力を身に付ける指導法の研究」とし、ユニバーサルデザインの考え方に基づき学習者主体の学びを目指した学習指導を追究してきている。この研究テーマをもとに、郷土教育や人権同和教育の視点に立って、児童一人一人の実態を踏まえ、自己肯定感を高めるとともに他者理解を深められるような取組を進めてきた。
　重点課題とした「部落差別（同和問題）」については、６年生の社会科及び総合的な学習の時間を中心に、指導主事や地域協力員が授業を参観し、指導助言や意見交流等を行い授業改善に努めた。また、「障害者」の人権については、外部講師を招聘し、児童が体験を通して人権感覚を高められるような取組を行い、保護者や地域住民にも参加を呼びかけ地域全体で学ぶ機会とした。
　今後は、各種調査や児童の実態等から、その成果や課題について分析し、次年度からは地域と関わりながら学ぶ機会の充実や仲間づくりの実践等について、カリキュラム・マネジメントの観点から教育課程全体を見直し、人権教育の推進を通して、地域と共に成長していく児童の育成に取り組む計画である。

〇指定理由

　伊佐市立菱刈小学校は熊本県及び宮崎県との県境に近い鹿児島県北部に位置する。校区内には菱刈人権文化センターが設置されており、市民や児童生徒対象の人権に関する学習会等が行われている。本センターと菱刈小の結びつきは強く、これまでに菱刈小学校は職員研修の一環として、菱刈人権文化センターで職員の講話を聞いたり、フィールドワークに取り組んだりしてきた。
　また、校区内には平成 13 年度に同和対策事業で小規模住宅地区改良が行われた地区があり、その歴史的経緯等について教職員が学ぶことを継続してきた。
　令和６年度には、本県教育委員会が「子どもの人権プロジェクト推進校」に指定し、ゴールイメージを「なりたい自分の姿をイメージさせ、自他を大切にできる子どもの姿」と定め、人権教室や職員研修及び家庭教育学級に人権同和教育課指導主事を派遣し、一定の成果を収めたところである。
　このように、同和問題を正しく認識し、理解を深める実践に取り組み続けている学

校であり、今後も本県の人権同和教育の先進校としての役割を果たすことが期待できることから、研究指定校に指定した。

３．取り組んだ人権課題

※　該当するものに〇印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題１つに◎印。
※　下線部は、令和７年度事業における重点課題。

① 子供	〇
② 女性	
③ 高齢者	
④ 障害者	〇
⑤ 同和問題	◎
⑥ アイヌの人々	
⑦ 外国人	
⑧−１ HIV 感染者等	
⑧−２ ハンセン病患者等	
⑨ 刑を終えて出所した人	
⑩ 犯罪被害者等	
⑪ インターネットによる人権侵害	
⑫ 北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬ 性的指向、性自認	
⑭ その他（　　）	

４．調査研究の内容等

〇調査研究の内容

【研究仮説１】
　自分の考えを伝えたり、他者の考えを受け入れたりする仲間づくりを計画的・継続的に行うことで、自己肯定感や表現力、コミュニケーション能力が高まるのではないか。

　各教科における授業や学級活動、児童会活動等において、自分の考えを伝えたり、

他者の考えを受け入れたりするなど、自他のよさを認め合う活動を効果的に取り入れることで、児童一人一人の自己肯定感を高めるとともに、表現力やコミュニケーション能力を高め、生活の様々な場面で生かせるようにする。

【研究仮説２】
　郷土に対する誇りをもつことができるような授業づくりを、系統的に継続して行うことで、地域に貢献しようとする意欲が高まるのではないか。

　総合的な学習の時間における同和問題に関する学習や各教科での学習で、「伊佐のふるさと教育」のねらいを踏まえ、先人の働きや地域の発展の様子について自ら追究する学習を展開する。そのことで、郷土への愛着をもつことができるようにするとともに、自らも地域へ積極的に携わっていこうとする意欲を高める。

【研究仮説３】
　一人一人を認める場面を意図的に設定したり、自他のよさを可視化する設営の工夫を行ったりすることで、自己肯定感を高め他者理解の意識を育むことができるのではないか。

　特別活動の人権集会や、儀式的行事などにおいて、児童一人一人を称賛する場面を設定したり、掲示物などの設営を行う際に互いを認め合うことができるような作品展示の工夫を行ったりすることで、よさに着目し自他を尊重する意欲を高める。

〇実施方法

【授業改善】
- 〇　人権尊重の視点を踏まえ、児童一人一人を大切にした授業モデルを構築し、共通理解・共通実践を図り、学力向上につなぐことができるようにした。
- 〇　６年生の部落差別（同和問題）に関する学習では、県教育委員会や伊佐市教育委員会の指導主事が授業を参観し、指導･助言をしながら授業づくりを行った。
- 〇　６年生の部落差別（同和問題）に関する学習では、歴史上の様々な出来事について、そこで生きた人々の苦労や知恵等の生き方に触れながら、知的理解を目指した。また、自分たちの家族や身近な祖先の生き方とも重ねながら授業の振返りを行うことで、人権感覚の醸成につながるよう、授業の展開を工夫した。

【仲間づくりの充実】
- 〇　各教科及び特別活動等において、自他のよさを認め合う活動を意図的、継続的に取り入れ、仲間づくりや安心・安全な学校・学級づくりに取り組むことができるようにした。
- 〇　５月の人権集会で人権や子どもの権利について学習した。各学級では、よりよい学級づくりを目指して「学級の歌」を作成し定期的に歌いながら意識を高めた。
- 〇　表彰の際、児童の頑張りについて紹介するなど、全体の場で児童一人一人を称賛する場面を意図的に設定した。
- 〇　「学校楽しぃーと」の調査項目である「教室の安心」における３項目（語り合い、支え合い、認め合い）を意識し、学級内で協力し支え合いながら、一人一人の表現力やコミュニケーション能力を高めていけるよう取り組んだ。
- 〇　障害者の人権について考えるため、パラアスリートと出会い、体験を通して障害者の権利や共生社会について考える機会を設けた。

【学習環境の整備】

○　校内に人権コーナーを設置し、これまでの学習の記録やこれから考えたい課題等を掲示し、人権について取り組んでいる内容が視覚的に分かるよう工夫した。

○　教室等の設営では、児童一人一人が自他のよさに気付けるよう作品展示の仕方を工夫した。

【職員研修の充実】

○　「児童の権利に関する条約」及び「こども基本法」について、職員研修で確認を行った。また、各種アンケート等により丁寧に児童の実態把握に努めるようにした。

○　教職員が互いの人権感覚を磨き合い、日々の教育活動の中で、児童一人一人に丁寧に関わっていけるよう協働的に学ぶ研修を行った。また、毎週月曜日の職員連絡会では、課題と感じる児童の言動等について、子どもの様々な背景に思いを巡らしながら全職員で共有し、共通実践へとつなげた。

【保護者、地域住民との連携】

○　外部講師を招聘した講演会を実施し、教職員・保護者・地域住民が一体となって人権について学び、人権尊重の精神を高めることができるようにした。

○　教職員が地域のよさや、地域で生きてきた人たちの生き方や誇りを実感できるよう、地域の人たちと出会い、授業の打合せをしたり、直接話を聞いたりする機会を設定した。

○　低学年の生活科では、地域の高齢者を招いて昔の遊びを教えてもらったり、地域の商店街で働く人たちの仕事を調べたりした。また、４年生の総合的な学習の時間では、保護者や地域の方々の協力を得ながら稲作の授業に取り組んだ。

○　６年生の部落差別（同和問題）に関する学習では、地域協力員にも授業参観してもらい、意見交流を行った。

○　これらの地域と関連のある内容については、「伊佐のふるさと教育」のねらいを踏まえ、先人の働きや地域の発展の様子について児童自ら追究する学習を行い、活動を通して、児童が地域への愛着と、自らも地域へ積極的に携わっていこうとする意欲を高めることができるようにした。

○検証・評価・改善・普及

ア　検証・評価

(ｱ)　　全国学力・学習状況調査の児童質問紙

４段階（１あてはまる・２どちらかといえば、あてはまる・３どちらかといえば、あてはまらない・４あてはまらない）の各段階の割合（%）

【児童質問紙】実施対象者：６年生

＼	質　問	1	2	3	4
1	自分には、よいところがあると思いますか。	R6：27.3	R6：63.6	R6：0.0	R6：9.1
		R7：46.7	R7：40.0	R7：6.7	R7：6.7
2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	R6：27.3	R6：72.7	R6：0.0	R6：0.0
		R7：93.3	R7：0.0	R7：6.7	R7：0.0

・　質問２について、90%を超える児童が肯定的回答をしていることから、教職員が児童を認める場や機会を増やしたことが背景にあると考えられる。

・　質問１について、否定的回答をした児童がいることから、各教科や特別活動等において仲間づくりを促進し、体験活動の中で自分の可能性や仲間のよさを実感する場をさらに工夫していくとともに、教職員の認識や日ごろの言動を見直し、改善を図っていく必要がある。【価値的・態度的側面】

＼	質　問	1	2	3	4
3	将来の夢や目標をもっていますか。	R6：45.5	R6：36.4	R6：18.2	R6：0.0
		R7：80.0	R7：20.0	R7：0.0	R7：0.0
4	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	R6：54.0	R6：45.5	R6：0.0	R6：0.0
		R7：73.3	R7：20.0	R7：6.7	R7：0.0
5	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	R6：18.2	R6：54.5	R6：27.3	R6：0･0
		R7：20.0	R7：60.0	R7：20.0	R7：0･0

・　質問３と質問４から、将来の夢や目標をもち、人の役に立ちたいと思う児童が増えつつあることが分かる。
・　質問５について、強肯定の割合が他の質問と比較し低い傾向がある。コロナ禍で地域行事が減少する中で年齢を重ね、地域や社会のために貢献する具体的イメージがもてない児童が多いのではないかと考えられる。今後は、役に立ちたいという児童の意欲を保ちつつ、キャリア教育やボランティア活動とも関連させながら多様な集団の中で主体的に関わっていく機会や、地域の人たちと主体的に関わる学習活動を意図的、計画的に設定したい。【技能的側面】

(ｲ)　鹿児島県教育委員会「生徒指導月例報告」いじめの認知件数、内容（一部抜粋）

内　容	令和６年度	令和７年度
いじめの認知件数報告（毎週月曜日）	７件(未解消１)	現：６件(現:未解消2)

・　毎週月曜日に実施している事例報告会がいじめの未然防止や早期発見に大きな役割を果たしている。また、各種アンケート等は、教職員が気付けなかった児童の不安や思いを知る機会となっている。これらを実施、分析することで担任だけでなく学校全体で対応や支援ができる体制を整えている。
・　相手の気持ちを考えずに発した言動等が主な原因となるいじめの認知件数になかなか改善が見られない状況があった。このことから、身体の特徴を冷やかしたり、笑ったりすることについて、児童が考えるきっかけにできるよう、12 月の人権集会では、パラアスリートの宇田秀生選手を招き、講話及び持久走大会を行った。講話後、持久走大会で一緒に活動する体験を通して、障害者理解について学ぶ機会を得た。明るく力強く生きる宇田選手の生き方に学び、違いは笑ったり、排除したりする理由にはならないことについての理解の深まりが伺える児童の感想が多数見られ、共によりよく生きていくことの大切さや尊さを、児童、教職員、保護者、地域の方と共に実感することができた。
　全ての教育活動において大切にしたい視点であり、今後も様々な人権課題等を通して継続して取り組んでいきたい。【知識的側面，価値的・態度的側面，技能的側面】

(ｳ)　県総合教育センター「学校楽しぃーと」対象者：５・６年生抽出（全校児童実施）

４段階（４とてもそう思う・３すこしそう思う・２あまりそう思わない・１そう思わない）の教室の安心における３項目の平均（%）

＼	質　問	令和７年７月	令和７年11月
１	**語り合い**（言いたいことを遠慮せずに言える・思ったことをはっきり言える・嫌なことは嫌だと言える）	５年:64.2	５年:60.8
		６年:80.8	６年:73.3
２	**支え合い**(助け合い・協力し合える関係・困ったとき支えてくれる人の存在)	５年:84.2	５年:78.3
		６年:90.0	６年:85.0
３	**認め合い**(間違っても大丈夫という雰囲気・違う意見や新しい考えでも言える雰囲気)	５年:69.2	５年:69.2
		６年:89.2	６年:85.8

・　両学年共に２回目の調査で低い数値が出た。多くの行事を経験する２学期は、学級内でのぶつかり合いもあり、結果に反映されたと推測される。
・　５年生の結果は、個別教育相談の中で児童の内面を知る際の視点として生かした。クラス替えのない中で、自己表現の仕方や他者との関わり方に難しさを感じている児童の実態が分かった。
　学級のぶつかり合いは、児童にとって大切な経験であり、自己開示の機会や主体的に解決していく機会と捉え、今後も人権学習の実践に生かしていきたい。【価値的・態度的側面、技能的側面】

(ｴ)　その他

・　重点課題として取り組んだ部落差別（同和問題）では、６年生の総合的な学習の時間と社会科の歴史の学習を関連させた部落問題学習の中で、児童支援加配と６年担任が計画的に授業づくりを進めた。県教育委員会や伊佐市教育委員会の指導や地域協力員からの意見を踏まえ、部落問題学習の授業内容の練り上げを行うことができた。
・　長期休業中は、地域の菱刈人権文化センターで行われる夏祭りやクリスマス会等に全職員が参加し、児童や地域の人たちと交流した。また、同センターで職員研修を行い、地域の歴史等について全職員で学ぶことができた。今後も、地域に出向き、地域の人たちと出会い、思いに触れながら学ぶ機会を継続していきたい。

イ　改善・普及

・　外部講師の招聘や地域協力員との学習、各種研修会への参加等により、児童の人権学習や教職員の人権教育に関する研修がより充実した取組になった。６年生の部落差別（同和問題）に関する学習については、今年度の取組を踏まえ、さらに主体的な学習になるよう、他校へも参観を呼びかけ、意見を取り入れながらよりよい授業づくりを行っていきたい。
・　研修視察から、学校と地域が一体となった取組について様々な可能性を知ることができた。得たものをヒントにいくつかの授業改善には取り組んだが、今後は、１年生からの地域とともにある人権学習の積み重ねが６年生の学習につながるよう、系統的なカリキュラム構成を研究し、他校や他地域へも広げていきたい。
・　職員研修では、各種調査等の数値を分析しながら児童の思いや行動の背景にも思いをめぐらす視点が生まれてきた。職員が自己開示しながら協働的に学ぶ方法や、知識的理解に止まらない学びの在り方についても研究を深めていきたい。
・　自己肯定感が高まりつつあるが十分とは言えない。児童の実態を受け、児童の権

利を踏まえた教育活動（共通理解、共通実践）を展開しながら、間違っても否定されない授業づくりや、多様な考えを認め合う人間関係づくり、失敗を恐れず安心して挑戦できる学習環境づくりを学校全体で取り組んでいきたい。

・　学校の取組を家庭や地域に積極的に公表し、協力関係を築きながら、人権教育を推進するための明確なメッセージを発信していく。また、地域の人と一緒に学習活動等を行う際は、個々の活動に終わらせるのではなく、身近な地域のよさを知る活動と人権学習を有機的に関連付けながら、継続的・系統的に行っていきたい。

・　成果物等については、県教育委員会のホームページで公開し、広く情報発信する。

５．人権教育にかかる年間指導計画

人権・同和教育関連学習年間計画

	1　学　期			
	4　月	5　月	6　月	7　月
1年	どうぞよろしく(国) 歌って踊って仲良くなろう(音) 新しい仲間(学)	聞きたいな友達の話(国) うまれたてのいのち(道)	おおきくなった(国) 木のぼり(道) 仲間づくり(学)	すきなものなあに(国) おおきなかぶ(国) はしのうえのおおかみ(道)
2年	ふきのとう(国) 音楽でみんなとつながろう(音) 大きくなったね(道) 友達となかよく(学)	たんぽぽのちえ(国) およげないりすさん(道) 三びきは友だち(道)	においい(学) スイミー(国) 仲間づくり(学)	花火にこめられたねがい(道)
3年	よく聞いて自己紹介(国) 音楽で心をつなげよう(音) 赤ちゃんもごはん食べてるよね(道) ともだちのこと考えよう(学) もやもやがき(総)	もっと知りたい友達のこと(国) 心をしずめて(道) さと子の落とし物(道) もやもやがき(総)	仲間づくり(学) もやもやがき(総)	仕事のくふう見つけたよ(国) 同じ小学校でも(道)もやもやがき(総)
	わたしたちのまちと市(社)		はたらく人とわたしたちのくらし(社)	
4年	あなたの時間に命をふきこめば(道) たのしい学級づくり(学) もやもやがき(総)	海をこえて(道) ほっとする学級(総)	一つの花(国) いのりの手(道) 仲間づくり(学) もやもやがき(総)	ランドセルは海をこえて(国) 地域に伝わる音楽に親しもう(音) なかまをもとめて(総)
	広げてみよう，市から県へ(社)			
5年	教えてあなたのこと(国) 私の生活大発見！(家) 命(道) 手をつなごう(学) 水俣病はどんな病気(総)	きいてきいてきいてみよう(国) まんが家手塚治虫(道) 水俣病について知る(総)	美しい夢(道) 仲間づくり(学) 水俣病問題のこれからについて考える(総)	みんなが過ごしやすい町へ(国) 古いバケツ(道)
	日本の国土とわたしたちのくらし(社)			
6年	歌声をひびかせて心をつなげよう(音) 友だちづくり(学)	言葉のおくり物(道) 字を勉強したい(総)	うなり声(道) 仲間づくり(学) 室町文化をつくった人々(総)	私たちにできること(国) 生き物のくらしと環境(理) 人々のくらしと身分(総)
	憲法と私たちの暮らし(社)	私たちの暮らしを支える政治(社)	国づくりへの歩み(社会)	室町文化と力をつける人々
人権旬間	「自分のことを語ろう。友達のことをもっと知ろう。」人権旬間５月２６日(月)～６月６日(金)			
	人権集会　５月２９日（木）：仲間づくり		各学級：人権学習	
研修・行事				

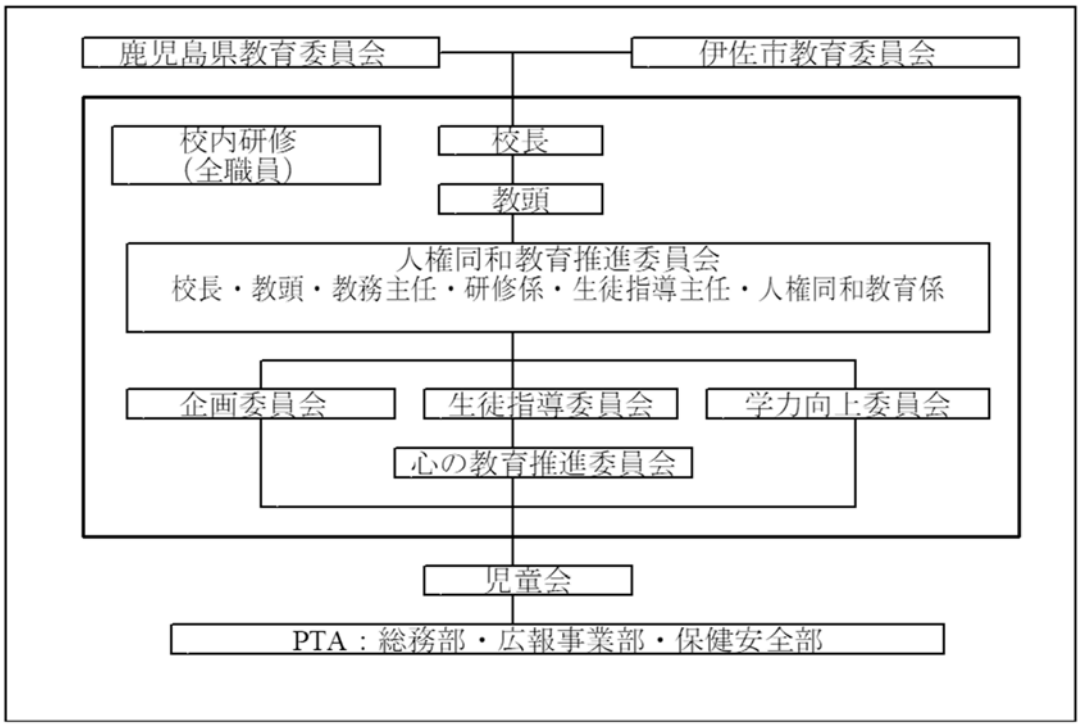
人権・同和教育関連学習年間計画

	2　学　期			
	9　月	10　月	11　月	12　月
1年	聞きたいな友達の話(国) かずやくんのなみだ(道)	くじらぐも(国)	ともだちのことしらせよう(国) 二わのことり(道) わたしがおねえさんよ(道)	てがみでしらせよう(国) ともだちのいいとこ発見(学)
2年	動物園のじゅう医(国) いいところみつけた(道)	お手紙(国)		わたしはお姉さん(国) やくそく(道)
3年	わたしと小鳥とすずと(国) お話づくり(道) もやもやがき(総)	ちいちゃんのかげおくり(国) 同じなかまだから(道) おかあさんの「ふふふ」(道) お父さんからの手紙(道) もやもやがき(総)	かまきり(道) お話づくり【人権教材】(総)	三年とうげ(国) 木の中にバットが見える(道) いえなかった【せいかつ】(総)
	はたらく人とわたしたちのくらし(社)			
4年	ごんぎつね(国) ほっとする学級(総)	クラスみんなで決めるには(国) つくればいいでしょ(道) もやもやがき(総)	世界にほこる和紙(国) ヒキガエルとロバ(道) あなたならどうする(道) ほっとする学級	いそぐ理由(総)
	広げてみよう，市から県へ(社)			
5年	和太鼓調べ(道) ハンセン病はどんな病気？(総)	よりよい学校生活のために(国) ハンセン病について知る(総)	父の仕事(道) ハンセン病問題のこれからについて考える(総) 自分たちにできることを考える(総)	あなたはどう考える(国) 太鼓にこめられた思い(道) 新聞づくり①(総) 新聞づくり②(総)
	日本の国土とわたしたちのくらし(社)			
6年	一番大事なものは(国) 医学の発展を支えた人々(総) みんな同じじゃ～涙染一摂～(総)	みんなで楽しくすごすために(国) ぼくだって(道) ロレンゾの友達(道) 明治政府と解放令(総)	光り輝く世の中に～水平社の運動～(総)	光り輝く世の中に～水平社宣言～(総)
	新しい文化と学問(社)	明治の新しい国づくり(社)	戦争と人々の暮らし(社)	平和な暮らしを目ざして(社)
人権旬間	「人権について考えよう」		人権旬間１１月２５日(火)～１２月１３日(土)	
	人権集会　１１月２７日(木)		各学級：人権学習	
研修				

人権・同和教育関連学習年間計画

	3　学　期		
	1　月	2　月	3　月
1年	ききたいなともだちのはなし(国) やめろよ(道) あなたってどんな人？(道)	きのぼり(学) どうぶつの赤ちゃん(国)	ずうっと，ずっと大すきだよ(国) いいこといっぱい１年生(国) みんなであわせてたのしもう(音) みんななかよく(学)
2年	おにごっこ(国)	スーホの白い馬(国) 楽しかったよ２年生(国)	すてきなところをつたえよう(国) みんなであわせて楽しもう(音)
3年	いちばんうれしいこと(道) 人権作文発表準備(総)	かまきり(学) わたしたちの学校じまん(国) 地域に伝わる音楽でつながろう(音) たっきゅうは四人まで(道) 人権作文発表(総)	モチモチの木(国)
	わたしたちの市の歩み(社)		
4年	日本の音楽でつながろう(音) 人権作文準備(総)	人権作文発表(総)	
	広げてみよう，市から県へ(社)		
5年	人のたんじょう(理) すれちがい(道)	伝わる表現を選ぼう(国) 生命の誕生(学) 知らない間のできごと(道))	差別について考える【まとめ】(総)
	日本の国土とわたしたちのくらし(社)		
6年	メディアと人間社会(国) 世界の国々の音楽(音) クラス宣言をつくろう～学級内に人権宣言を～(総)	今私はぼくは(国) あなたは家庭や地域の宝物(家) わたしのせいじゃない(道) 自分にできること(道) すべての人が幸せに生きるために(総)	中学校へつなげよう(国) 音楽で思いを伝えよう(音) ドリーム・プロジェクト(図) 最後のおくり物(道)
	世界の中の日本(社)	世界の中の日本(社)	世界の中の日本(社)
人権旬間	「差別をなくす学習から差別をなくす行動へ」　　人権旬間		
		各学級：	
研修・行事			

６．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会等を含む）



７．関連資料

12 月、パラアスリートの宇田秀生選手を招き、講話及び持久走大会を行った。講話後、持久走大会で一緒に活動する体験を通して、障害者理解について学ぶ機会を得た。



